

Monthly essay



I love Noto

阪

急うめだ本店9階催場の混雑に圧倒された。人の隙間に潜り込む。

お菓子を求める人の列の最後尾だった。黒糖饅頭、三作せんべい、生姜入り干菓子を買った。

「第39回旨し、美し。金沢・加賀・能登展」(1月11日〜17日)。出店予定80店余のうち7店が能登半島地震で見合わせた(その後報道で知った)。

前日夕刻に行った時は「本日分売り切れ」期間販売予定分売り切れ」続出で断念。翌日お昼前に再チャレンジして、銘品にありついたのである。

夕方から梅田で俳句の同好会があり、三作せんべいを配った。好き勝手に詠み、好き勝手に選ぶ。和気あいあいと終わりかけた初句会は、ある参加者の一言で空気が変わった。「災害を詠んでいいのだろうか」。

出された92句中14句が能登地

寒椿

春待つ心が増殖招いた?

寒椿はツバキ科の観賞用常緑低木です。写真は大阪市のある公園の寒椿で、こもり低いが、サザンカそっくりの花。「広辞苑」は「ツバキ科の常緑低木。中国原産といわれる」。図鑑、事典類に片端から当たると、「サザンカとツバキの交配に由来」「中国原産」「原産地不明。サザンカに近い」などバラバラ。ネットのサイトも参照。サザンカとツバキの交雑種のうち、「丈が高くなりにくく、八重あるいは半八重咲きになる品

種類の総称」という記述を見つけました。さらに「一般にサザンカという場合、カンツバキを指すことも多い」のだとか。なるほど。私もカンツバキをサザンカと思いついて一人だったか。なら納得。なぜこんなにいるんなカンツバキがつくられたのか…分かる気がします。花の乏しい「寒中」になんとか彩りを添えたい人情は、木偏に「春」と書いて、名実ともに春を代表する「椿」を求める気持ちが切実だったのでしよう。

2024 2/1~3/10 CALENDAR

2/3	土	大安 節分
4	日	立春
8	木	こと始め
9	金	大安
11	日	建国記念の日
14	水	大安 バレンタインデー
19	月	雨水
20	火	大安
23	金	天皇誕生日
26	月	大安
3/1	金	春季全国火災予防運動(〜7日)
3	日	大安 ひな祭り
5	火	啓蟄
9	土	大安

2月 シティ信金行事予定

- シティ信金写経会
8日 午前9時から
奈良西ノ京 薬師寺にて
- シティレディースクラブ「ランチセミナー」
9日 午前11時から
帝国ホテル大阪にて
講師は講師・声優・ナレーターの一龍 齋貞弥 氏
- 内外情勢調査会
大阪シティ支部2月例会
14日 正午から
帝国ホテル大阪にて
講師は国際政治学者 高橋 和夫 氏
- 地元への奉仕活動(清掃)
全店舗で実施

シティ信金協賛行事予定

- てんま天神梅まつり
10日〜3月3日
大阪天満宮にて



英語は簡潔で平明である。

過去2年で取り上げたコンテンツも一望出来る。能登パイはいかぼちゃ、のと里山里海ミュージアム、パワースポット青の洞窟、七尾の牡蠣小屋、千里浜なぎさドライブウェイ、湯涌温泉アニメ聖地巡礼…筆者「Aki」さんは関西出身。能登は第二の故郷だが、半端ない能登愛が伝わってくる。

「I love Noto」がアップされたのは1月13日。「能登はやさしや土までも」と言われてきた土地柄や人情に改めて思いを寄せながら、結びとして、二つの「お願い」を世界に発信している。「能登のことを知ってください」「どこかで能登の産物を見かけたら買い求め、この地にぬくもりを取り戻すための取り組みを応援してください」「今いる」大阪、日本、世界で「今出来ること」——焦点が素直に絞られた。(わ)